

佛足山大宝塔落慶供養法話

日本山妙法寺沙門

行勝院日達

南無妙法蓮華經

惟時昭和五十三年太岁戊午一月廿五日

聖楞伽国、仏教最勝の靈地佛足山の中腹、寒霞溪に、教主釈尊の御仏舍利を供養せんが為に、大宝塔を建てて、朝野遠近、縪素貴賤相集会して、落慶供養の大法要を挙行し奉る。

此聖地に、一度び起塔供養の誓願を發すや、聖楞伽国仏教の諸大長老は直ちに隨喜協賛の意を示し、聖楞伽国の大統領は是の御仏舍利塔建立を以て世界平和祈念の本尊として、親ら地鎮祭を執行せられ、聖楞伽の國民は老若男女、挙て大宝塔に參詣し、礼拝供養して、仏教繁昌の瑞相を歓喜し奉りぬ。

抑も、佛足山の縁起は遠く教主釈の御親化に始まる。楞伽經曰く、
「爾の時に、羅婆那、楞伽王は、頌を説て曰く、
世尊は七日、大海の中に住し、然して後に、龍宮を出て、安祥として此岸に昇り給ふ。復仏の威神力にて、仏に対して、己が名を称ふ。

『我は是れ羅刹王十首の羅婆那也。今仏の所に來詣し奉る。
願くば仏、我及び楞伽城中の所有る衆生を攝受し給へ。

過去の無量の仏は、咸く此宝山の頂に楞伽城に住して、如来所証の法を説き給へり。世尊も亦応に然る可し。彼の宝厳山に住して、諸の菩薩衆に囲繞せられて、清淨の法を演説し給へ。

請ふ、仏世尊、無量の夜叉衆を哀愍するが為に、宝嚴城に入り、此妙法門を説き給へ。此妙なる楞伽城は、種々の宝を以て嚴飾せられ、墙壁は土石に非ず。羅網は悉珍宝也。願くば佛、哀みて納受し給へ。』爾の時に世尊、即之に告げて曰はく、

『夜叉王よ、過去世の諸の大導師は、咸く汝を哀愍し、汝の勧請を受けて、宝山の中に詣り、如来所証の法を説き給ひき。未来の諸仏も亦復是の如くならむ。

此れば是れ、甚深の觀心修行を修し、法樂を現する者の止住する処也。

我及び諸の菩薩は、汝を哀愍するが故に、汝の所請を受けむ。』

已上經文

謹んで此経文を案するに、仏足山はひとり教主釈尊の、転法輪の靈場なるのみならず、過去無量諸仏の転法輪の靈場にして、しかも又未來無量の諸仏の転法輪の靈場也。かくて仏足山は三世諸仏の転法輪の靈場也。衆宝所成の靈山、衆宝嚴飾の靈山にして、永久に神仙の護り給ふ靈山也。

仏滅後二千五百年、闍譯堅固の大惡起り、一切衆生全滅の恐怖に曝さるる時、此宝山に住して、「甚深の觀心本尊の修行を企て、天鼓自然に鳴て、自受法樂を示現する者の止住する処也。」と説かれたるは、是ぞ正しく、現在の我が身の上の未來記なりしか。今仏足山に止住する青年

男女皆是れ一千五百年の往昔、教主釈尊の金口に由て、指定せられ、予告されて、末代の一切衆生救済の為に、如来滅後五百歳始観心本尊の妙行を修行する事を得たるは、實に過去の夙善厚き投身の使命なりけり、と自覺する時、誰か感激せざらん哉。

是大宝塔は毘首羯摩天の造立する処也。毘首羯摩天は天上にて降り下らざれども、地上の青年に宝塔建立の技術を授けぬ。地上の青年は天上に昇り上らざれども、毘首羯摩天より宝塔造立の技術を授かりぬ。さればこそ宝塔建立に未熟の青年數十名、全然原始的手法に由て、此大宝塔を僅に十ヶ月にして落成せしむる事を得たり。古今宝塔湧現の歴史にも、比類無き速疾頓成の大宝塔也。今^ハ將て世尊に奉る。哀感を垂れて、納受し給へ。

— 8 —

渡柵第一声

記者会見

昭和五一年九月二一日 コロンボ空港

スリランカは、世界の中でも最も立派な仏教国であります。そして、古い仏教の遺跡も保存されてあるとともに、新しい仏教の信仰が続々と指導されております。

スリランカの中でも、教主釈迦牟尼世尊が、自らこの地において、『大乗入楞伽經』をお説き遊ばされた。それがスリパーダのお山であります。スリパーダのお山は、お釈迦様おみ足跡が残っているということで、全国の人々は仏教信者のみならず、みんなのおみ足跡を拝みに参詣致します。そのスリパーダの神聖なるお山に、外国籍の私が発願致しまして、お仏舍利塔を建てたいと申しましたら、このランカの関係の御出家の人々をはじめとして、みんな、ことごとく、協力して賛成していただきました。ここにお仏舍利塔を建てることができるようになりました。

— 9 —

私は四十余年インドに布教しておりますが、インドのビハール州王舎城靈鷲山にお仏舍利塔を建てることができました。けれどもそれが、ヒンズー教徒の嫉みを受けて、インド人の自尊心を傷がすとい